

ミャンマーでの口腔がん検診の取り組み

背景と活動の概要

岡山大学病院は岡田名誉教授によるミャンマー医療人育成プロジェクトなどを通し、20年近く前より現地医科大学、保健省との繋がりを継続的に維持発展にさせ、2010年より形成外科、木股教授らによる現地での手術支援・指導活動を行い多大な貢献を行ってまいりました。日本では少ない口腔癌は現地では噛みタバコ (Betel Quid Chewing) の慣習により5大がんあるいは6大がんの一つに数えられるほど問題となっており、その応援並びに指導として、現地での口腔がん検診の実施をミャンマー歯科医師会と共同で行い、より診断技術の向上とエビデンスの蓄積といった科学的思考の導入が図られ、当院口腔外科の水川歯科医師 (元講師、現客員研究員)、飯田教授、口腔外科医局員を中心として検診活動が行われた。

活動内容

ミャンマー歯科医師会とPeople Health Foundation, 日本・ミャンマー医療人育成支援協会らの御協力によりミャンマーでの口腔がん検診を実施

- 2015年 パーン
- 2016年 モーラマイン
- 2017年 タウンジー
- 2018年 バゴ
- 2020年 チャウンゾン



発見された口腔がん

	がん発見率	
	全体 (%)	リスク群 (%)
がん発見率 (第1-第3回)	3.1	3.2
がんおよびがん疑い発見率 (第1-第4回)	2.2	2.3

業績 Mizukawa N, et al. Acta Med Okayama 71(6):519-524,2017.

コロナ並びに政情不安定のため現地での活動は実施できていないがミャンマーからの歯学部への留学生を通じた交流などが継続的に行われ、持続的な活動が行われ現地での医療の向上に貢献が行われている。

* 第4回のバゴの検診においては、コロナ関連およびミャンマーの政情不安により、がん疑いの病理検査の追跡調査ができていないので、疑い病名とした。また第5回のチャウンゾンはコロナおよびミャンマー政変により、追跡調査ができていないので、統計にいていない。

* 第1-3回までの受診者総数は161名、第1-4回までの受診者総数は、276名。